

日本天文学会 1963 年秋季年会

プログラム

◇日時 昭和38年10月11日(金), 12日(土)

◇会場 仙台市 東北大学金属材料研究所講堂

	午前 (9時より)	午後 (1時より)	夜
11日 (金)	研究発表	研究発表	懇親会
12日 (土)	研究発表	研究発表	

☆11日(第1日)の昼休みに理事会を開催いたします。

☆講演数が多いので、お申込の所要時間を減らしたのがあります。御諒承下さい。

☆講演時間はお守り下さい。

講演予稿集について：特別会員には1部ずつ無料で配布しますが、その他の方および特別会員で2部以上希望される方は1部につき実費60円、送料10円をお送り下さい。年会の当日会場でもおわけします。

第 1 日 10 月 11 日 (金)

〔午前〕 (9 時より)

分

1. 若生康二郎 (緯度観測所): 極運動座標と観測所の分布との関係について……………10
2. 須川 力, 古川麒一郎 (緯度観測所): V.Z.T. と F.Z.T. のスケール常数
が赤緯補正に及ぼす影響について……………10
3. 弓 滋 (緯度観測所): 極運動 (1962.0—1963.2) について……………10
4. 関口直甫, 根道文子 (東京天文台): 極位置未来値推定法 (II) …………… 7
5. 関口直甫 (東京天文台): 極運動の減衰係数 (II) …………… 7
6. 角田忠一 (緯度観測所): 外力に対する地球核の回転運動の応答……………10
7. 奥田豊三, 須川 力 (緯度観測所): 極運動の永年変化について……………10
8. 高木重次, 角田忠一, 村上源吉 (緯度観測所): 時刻観測による極運動決定
のための統計的方法論……………12
9. 飯島重孝, 岡崎清市 (東京天文台): 極運動の年周成分の成因について……………12
10. 虎尾正久, 岡崎清市, 佐藤 寛 (東京天文台): 欧州, 北米, 南米および日
本列島相互間における経度の永年変化について……………10
11. 飯島重孝, 松波直幸, 岡崎清市 (東京天文台): 1963 年 1~2 月における地
球自転速度異常の解釈……………12
12. 飯島重孝, 藤原 清 (東京天文台): サーボ式 VLF 受信比較装置について……………10

〔午後〕 (1 時より)

13. 安田春雄, 深谷力之助, 原 寿男, 伊奈辰之 (東京天文台): 東京の子午環
の観測から求めた Star Place について (I) ……………7
14. 安田春雄, 深谷力之助, 伊奈辰之, 原 寿男 (東京天文台): 子午環観測か
ら求めた緯度について…………… 7
15. 井上圭典 (水路部), 恒屋日数 C, D の補正值について……………10
16. 山崎 昭, 森 巧, 小野房吉 (水路部): フラッシュ・スペクトルによる
太陽-月の接触時刻測定装置……………10
17. 古川麒一郎, 平 三郎, 阿部 茂 (緯度観測所): 1963 年北海道皆既日食
観測報告 (I) ……………10
18. 坪川家恒, 北郷俊郎 (国土地理院): 人工衛星の追跡装置
—精密タイミング装置付写真赤道儀……………10
19. 井本 進 (大阪科学技術センター): 藤堂家旧蔵渋川春海作天球儀……………10
20. 堀 源一郎 (東大理): 小惑星の長年摂動について……………10

21. 古在由秀 (東京天文台): 人工衛星の軌道決定精度について……………10
22. 堀 源一郎 (東大理): 人工衛星の運動に及ぼす地球の影の影響……………10
23. 堀 源一郎 (東大理): 人工衛星の運動に及ぼす地球大気の影響……………10
24. 青木信仰 (東京天文台): 人工衛星の Critical Inclination について……………10
25. 青木信仰 (東京天文台): Commensurability の場合における Pericenter の
運動について……………10
26. 富田弘一郎, 西村雅賢* (東京天文台, *甲南カメラ研究所): 自動流星写真儀………… 7
27. 田鍋浩義 (東京天文台): 海面及び陸地の反射能…………… 5
28. 田鍋浩義 (東京天文台, ハワイ大学): 5300 A における 大気光及び黄道光
成分……………10
29. 田鍋浩義 (東京天文台, コロラド大学, ハワイ大学): 対日照の観測……………10
30. 田鍋浩義, 中村 強, 中村純二, 斎藤馨児, 田中京子 (東京天文台): 北海
道日食における黄道光観測 (飛行機及び樽前山) …………… 7

第 2 日 10 月 12 日 (土)

[午前] (9時より)

31. 竹内 峯 (東大理): 種族 I セファイドの脈動定数について…………… 7
32. 高瀬文志郎 (東大理, カリフォルニア大): セファイドの運動学的解析……………10
33. 高瀬文志郎 (東大理, カリフォルニア大): セファイドの K 項の解釈について………… 7
34. 石田憲一 (東京天文台) ポテンシャル V_H による銀河軌道の解析 (II) …………… 5
35. 堀源一郎 (東大理) 質量の中心集中度が時間と共に変る場合の星の運動 (II)…………10
36. 宮本昌典 (東京天文台): 球状星団の空間分布について……………10
37. 海野和二郎, 下田真弘, 菊池 仙 (東大理): 星間雲の凝縮 (II) ……………10
38. 高窪啓弥 (東大理): 星間ガスの構造……………10
39. 宮本昌典 (東京天文台): 渦状腕の円輪モデルについて……………10
40. 藤本光昭 (東大理): 系外星雲の Dark Lanes (II) —棒状銀河系—……………10
41. 田中春夫, 柿沼隆清, 山下 崇 (名大空電研): 波長 8 cm における銀河電
波の観測…………… 7
42. 高倉達雄 (東京天文台): 太陽電波 I 型バーストの発生について……………12
43. 甲斐敬造 (東京学芸大): IV型バーストの円偏波 (II) ………………10
44. 河鱈公昭 (東京天文台): Gyro-resonance Radiation の輸達……………10

[午後] (1時より)

45. 堀井政三 (生駒山太陽観測所): Coronal Condensation の physical condition
について……………10
46. 椿都生夫 (花山天文台): 1962 年 日食時における ポーラーレイについて…………… 5
47. 川口市郎 (花山天文台): 紫外線輻射のプロミネンスに及ぼす影響
(II 水素原子)……………12
48. 平山 淳 (東京天文台): 日食で撮れたプロミネンスのスペクトル (II)……………10
49. 鈴木義正 (京都学芸大): 太陽面周辺部における黒点半暗部のリム側と太陽
中心側における微細構造の違いについて…………… 8
50. 牧田 貢 (東京天文台): 地球大気の大擾乱による散乱函数のかたちについて…………… 7
51. 松丸 勝, 江沢 正(防衛大): 電子観測装置用フィルム駒どり録画装置…………… 8
52. 上条文夫 (東大理): ヘビ座アルファ星のスペクトル…………… 7
53. 藤田良雄, 辻 隆 (東大理): りょうけん座 Y 星の スペクトル解析……………10
54. 山下泰正 (東大理): M 型巨星の 写真赤外線スペクトル…………… 7
55. 辻 隆 (東大理): 星の大気における分子の解離平衡 (II)……………10
56. 上条文夫 (東大理): 炭素星大気における固体粒子の生成…………… 7
57. 寿岳 潤 (東京天文台): 高速計算機によるモデル大気の計算 (II)一
晩期型星の連続及び吸収線スペクトル……………10
58. 西村史朗 (東京天文台): G, K, M 型矮星の光電測光観測…………… 7
59. 近藤雅之 (東京天文台): Nova Her. 1963 のスペクトル (II)…………… 5
60. 北村正利 (東京天文台): 散開星団内の食変光星の研究 (I)一
TX Cnc について…………… 7
61. 等松隆夫, 藤田長子* (東大理, *東大生研): 厚い大気によるスペクトル線
の非密着性散乱の数値計算……………12
62. 林 正男 (東京天文台): 重力収縮過程の星の進化…………… 7